

平成27年度 筑前町学力向上推進プランの指標・評価基準

筑前町学力向上推進協議会

学力調査等における達成目標						
項目	指標	教科	評価基準			評価
			1	2	3	
学力実態	全国学力・学習状況調査の結果 平成27年4月実施 ※対象：小学校(第6学年) 中学校(第3学年)	国語A	平均正答率が、県・全国をともに下回る。	平均正答率が、県以上または全国以上になる。	平均正答率が、県・全国をともに上回る。	
		国語B				
		算数・数学A				
		算数・数学B				
福岡県学力実態調査の結果 平成27年6月実施 ※対象：小学校(第5学年) 中学校(第2学年)	平均正答率が、県以上になる。	社会	平均正答率が、県を下回る。	平均正答率が、県以上になる。	平均正答率が、県を1ポイント以上上回る。	
		理科				
		英語				
学力検査の結果 (小学校) 平成27年12月実施 ※対象：第6学年児童	平均正答率が、全国以上になる。	国語 社会 算数 理科	平均正答率が、全国を下回る。	平均正答率が、全国以上になる。	平均正答率が、全国を1ポイント以上上回る。	
学力テストの結果 (中学校) 平成28年1月実施 ※対象：第3学年生徒	平均正答率が、県以上になる。	国語 社会 数学 理科 英語	平均正答率が、県を下回る。	平均正答率が、県以上になる。	平均正答率が、県を1ポイント以上上回る。	
合 計						#DIV/0!

学校の組織的な、工夫ある、継続的な取組							
項目	目標	平成25年度		平成26年度		平成27年度	
		具体的な取組	評価	具体的な取組	評価	具体的な取組	評価
授業づくり	児童生徒の授業評価 (平成27年12月実施)	授業満足度をアップする。	ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくりを行う。	3	子どもの考えや思いを表現する活動を 取り入れ、それらを全体やペア、グ ループの友だちに発表していく場を設 定する。	3	算数科を中心に予習を活用した授業づ くりを行い、「わかる・できる」授業 の構築を図る。
	校内研修の充実	校内研修で授業力を磨く。	年間1回以上の授業公開を行い、全体、部内 での協議会をもつ。	2	年間1回以上の授業公開を行い、全職 員やそれぞれの部等で協議会をもち、 次に生かせる研修にしていく。	3	年間1回以上の授業公開を行い、全職 員やそれぞれの部で協議会をもち、わ かる授業づくりにしていく。
	学力の実態の分析と共通 理解	学力の実態を分析し、全職員 で共通理解する。	全国学力実態調査や県の学力診断テスト、また標 準学力調査の結果を数値化したり、課題になっ ているの問題等を確認したりする。またその結果を 研修や運営委員会を通して、生かしていけるよう にする。	3	全国学力実態調査や県の学力診断テスト、また標準学 力調査の結果を数値化し、全国や県の平均と比較する などしていき、課題になっているの問題等を確認して いく。またその結果を研修会や運営委員会を通して、 提起していき生かしていけるようにする。	3	全国学力実態調査や県の学力診断テスト、また標準学 力調査の結果を数値化し、全国や県の平均と比較する などしていき、課題になっている問題と、担当学年と の比較をするなどし、現在の本校の実態を確認してい く。
学びの 基盤づくり	学習規律の確立	全学年共通の学習規律と発達 段階に応じた学習規律の徹底 を図る。	研推部を中心に、学校で必要な学習規律について話し 合い、それを元に学期の始めに教職員・児童ともに確認 する。また学校評価の項目にも入れ、毎学期の最後に 評価し、成果と課題を明確にし、次の学期に生かして いくようにする。	3	研推部を中心に、学校で必要な学習規律について話し 合い、それを元に学期の始めに教職員・児童ともに確認 する。また学校評価の項目にも入れ、毎学期の最後に 評価し、成果と課題を明確にし、次の学期に生かして いくようにする。	2	一般研を活用し、先生全員で必要な学習規律について 話し合い、それを元に学期の始めに児童に確認する。ま た学校評価の項目にも入れ、毎学期の最後に評価し、 成果と課題を明確にし、次の学期に生かしていくよう にする。
	補充学習等の実施	補充学習等を実施し、学力の 定着を図る。	「サマースクール・IN・なのみ」「アフ タースクール・IN・なのみ」を計画的に実施 し、学習が苦手な児童の学力補充を行う。	3	「サマースクール・IN・なのみ」「アフタースク ール・IN・なのみ」を計画的に実施し、学習が苦手な児 童の学力補充を行う。また放課後等にも指導方法工夫 改善の先生を活用し、確実に学力をつけていくように する。	3	「サマースクール・IN・なのみ」「アフタース クール・IN・なのみ」を計画的に実施し、学習 が苦手な児童の学力補充を行う。また定期的な 放課後学習も計画し、確実に学力をつけていく ようにする。
連携 づくり	学習サポーターの活用	大学生、PTA、地域住民を活 用し、個に応じた指導を行 う。	「サマースクール・IN・なのみ」「アフタース クール・IN・なのみ」の場に学生、地域住民など から募った学習サポーターを積極的に活用してい く。(地域コミュニティーを積極利用)	2	「サマースクール・IN・なのみ」「アフ タースクール・IN・なのみ」の場に学生、 地域住民などから募った学習サポーターを 積極的に活用していく。	2	「サマースクール・IN・なのみ」「アフタース クール・IN・なのみ」の場に学生、地域住民な どから募った学習サポーターを活用していく。
	家庭との連携	家庭学習を充実する。	自学ノート(各学年対応)を配付し、時間や 内容について家庭と連携を取りながら学習の 定着を図る。	3	「家庭学習の手引き」の活用の仕方を、学級集会等を 活用していきながら、共通理解していく。またPTA の学級委員会と連携し、家庭学習のチェックシートを 定期的に行うなど家庭学習の習慣化を図る。	2	「家庭学習の手引き」の活用の仕方を、学級集会等を 活用していきながら、共通理解していく。また算数科 で予習を生かした授業を展開していくので、家庭にも 連絡をし、確実に予習を定着していくようにする。
合 計						#DIV/0!	

4 計画以上に実施できた 3 十分に実施できた 2 十分には実施できなかった 1 実施できなかった